

# 診療科ダイジェスト

## 泌尿器科



前立腺がん、腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がんのロボット手術を積極的に行っております。ご紹介宜しくお願い致します。



## 泌尿器科におけるロボット支援手術

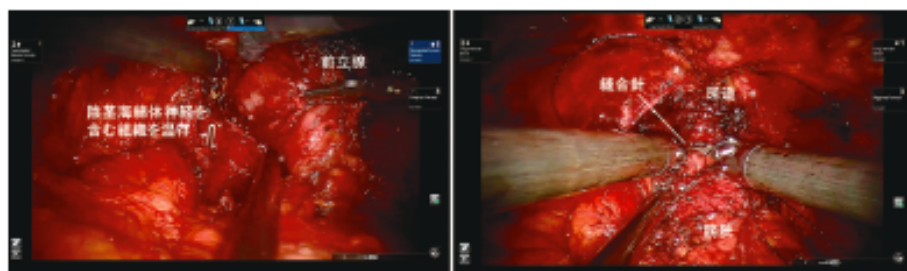
泌尿器科では狭くて深い後腹膜腔や骨盤内の臓器を対象とした手術が多く、以前から体腔鏡手術が盛んに取り入れられてきました。当院で行っている手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いたロボット支援手術では、高解像度の3次元視野のもと、関節機能を有する鉗子を用いた繊細な操作によって、体腔鏡手術の技術的な困難性を克服し、癌制御、機能温存、安全性のすべてを求めうる低侵襲手術が可能です。当院では2015年にダヴィンチ Si を導入して前立腺癌の手術から開始、以後尿路上皮癌、腎細胞癌に対してロボット支援手術を行ってきました。今年4月末からはこれまでのダヴィンチ Si に代わって、最新鋭の機種であるダヴィンチ Xi を導入しており、精度の高い手術をさらに幅広い患者さんに提供することを目指しています。



(ダヴィンチ Xi  
画像提供：インテュイティブサージカル合同会社)

### 前立腺癌

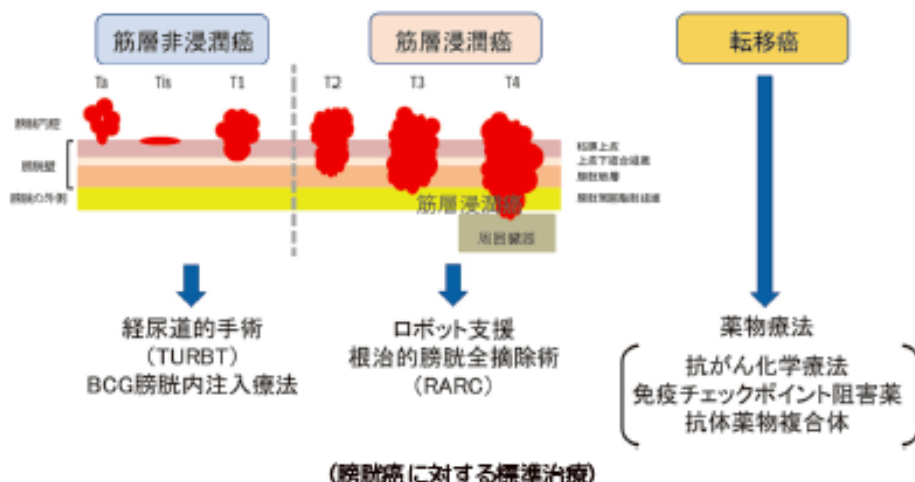
代表的な腫瘍マーカーである PSA のスクリーニングによって、限局癌が多数を占めています。限局癌では治療介入によって排尿機能、性機能への悪影響が懸念されます。当院では前立腺癌に対する手術は全例に対してロボット支援根治的前立腺全摘除術（RARP）を行っております。進行癌に対してはまずホルモン療法が標準治療で、病状が安定した場合は地域連携バスを活用して地域の先生方にホルモン療法の継続をお願いしています。ホルモン療法再燃のリスクが高い患者さんや再燃した患者さんには新規ホルモン剤やタキサン系抗がん剤を中心とした薬物療法を行っており、さらに DNA 修復酵素の異常がある患者さんに用いる薬剤もあります。新規性の高い多くの薬剤を使いこなし、パリエーションに富む治療が可能になりました。



(ロボット支援根治的前立腺全摘除術。確実性の高い神経温存操作と運針操作が可能となった。)

### 尿路上皮癌

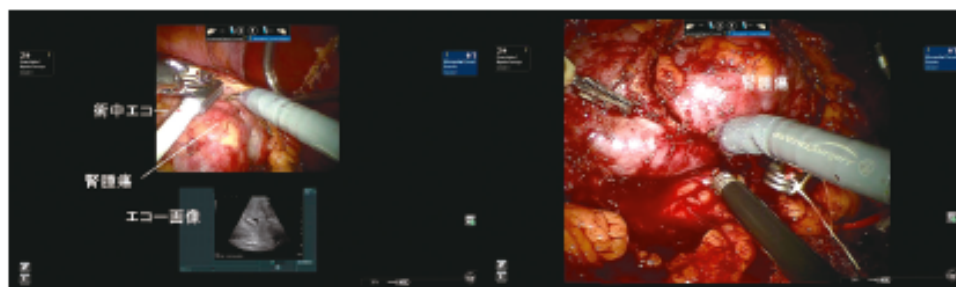
尿路上皮癌に対しては、筋層浸潤のない膀胱癌では経尿道的手術、浸潤性膀胱癌には根治的膀胱全摘除術、上部尿路癌に対しては腎尿管全摘除術が行われます。当院は以前から尿路上皮癌の患者さんが多く、その手術件数は県下でもトップクラスです。2018年からはロボット支援根治的膀胱全摘除術（RARC）を開始、小さい創で出血量の少ない手術を可能にしました。2019年末からは RARC 後の尿路変向術に対してもダヴィンチを用いて体腔内で行っています。術後再発や転移のある進行癌の患者さんに対しては、多剤併用抗癌化学療法、免疫チェックポイント阻害剤、抗ネクチン-4抗体を駆使し、個々の患者さんの病態に応じた多彩な薬物療法を行っています。





## 腎細胞癌

腹部エコーによる検診の普及に伴い、早期の腎細胞癌が増加しています。これに対する標準術式は腎摘除術ですが、腎部分切除術によって腎機能を温存しつつ同等の癌制御を得ることができます。腫瘍の位置やサイズによっては腹腔鏡を用いた腎部分切除術が手技的に困難な患者さんが多いですが、当院ではこういったいわゆる「高難度症例」に対してもロボット支援腎部分切除術（RAPN）で積極的に治療しています。進行癌に対しては、複数の分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤、そしてこれらの複合レジメンが多数導入されており、従来に比べて圧倒的に良好な治療効果が期待できます。



(ロボット支援腎部分切除術。術中エコーによって切除マージンを決定し腫瘍を切除する。)

## おわりに

地域の先生方からのご紹介、ご支援に対し心より感謝しております。泌尿器癌に対する治療は手術、全身治療ともに急速に進化し多様化しています。ご紹介いただきました一人一人の患者さんに最適な、そして高品質な癌治療を提供すべく、みんなで力を合わせて励んでおります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



<https://nishi.kcho.jp/anna/shinryoka/hinyokika.html>  
■泌尿器科紹介ページ



<https://nishi.kcho.jp/davinci>  
■ダヴィンチ特設サイト